学　校　だ　よ　り

令和２年１０月１４日　上田市立第二中学校　№７

「Growth＆Discovery」をテーマに、第４６回二中祭

～感染対策を考えながら、新たな文化祭を求めて～

第４６回目を迎えた二中祭。今年度は、新型コロナウイルス感染症にどのように対策をして開催していくべきなのか、生徒会役員を初め全校の生徒、そして先生方から多くのアイデアを出し合ってきました。どの場面でも三密にならない対策は確実に考えながらも、生徒会がテーマとして掲げてきた、「お互いの『成長』と『発見』を認め合う」ことを大切にして、二中祭を創りあげました。

各学級や学年では、合唱や体育祭への練習を通して、お互いに声をかけ合いながら全員で力を合わせて団結する素晴らしい姿がたくさんありました。また、今までそれぞれの授業で取り組んできた学習の成果が、各教室の一つ一つの展示品やステージ発表にて見られました。さらに、今年度は地域の中で二中生ができることは何なのか、上田市教育長峯村秀則先生もお迎えして、全校で話し合うという新たな一歩も実現することができました。

本来であれば、保護者の皆様や地域の皆様に二中生の姿を目の前でご覧いただきたいところではありましたが、音楽会では検温カード持参でご観覧いただく等、ご協力をいただきまして、誠に申し訳ありありませんでした。また、コロナ禍の中ではありながらも、これまで長期に渡り感染対策を講じながらも連日アルミ缶回収にご協力をいただきましたこと、保護者・地域の皆様には誠に感謝であります。

皆様のお力添えをいただきながら、二中祭の新たな一歩を残すことができました。本当にありがとうございました。今後とも、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

各学級団結した八の字跳び

生徒会役員による開祭宣言

流れるようなバトンパス

日々の姿を認め合った開祭式

美術部力作のステージバック

一人一人が堂々と意見発表

全校で話し合った総務会企画

感謝を伝えた部活動発表

今年度初ステージの吹奏楽部

歌で感動を伝えたクラス合唱

学習成果を伝え合った展示見学

画面で表現した学年合唱

○笑顔は最高のおしゃれ　～秋の人権月間 校長講話より～

１０月７日から始まった人権月間。自分たちがこれからどう生きるかを考えるきっかけとして、校長先生に次のような講話をいただきました。

１９９０年４月６日。愛知県に一人の女性が生まれました。名前は、佐野有美さん。有美さんは両腕がなく、足も短い左足が１本だけ。しかも、指は３本しかありません。「先天性四肢欠損症」という病気です。

ご両親は有美さんと自分の家で一緒に暮らすことを決意し、有美さんの面倒をお姉さんやおじいさん、家族全員がみるようになります。

そんな中、有美さんが左足でぬいぐるみに服を着せようとする信じられない光景を目の当たりにします。「できるわけがない」そうお母さんは思いましたが、そこには洋服を着せられたぬいぐるみと有美さんの笑顔がありました。「この子は、一生懸命生きようとしているんだ」お母さんは、有美さんの姿に涙を流し、「有美さんが様々なことを自分でできるようにしよう」と決意をします。

左足でスプーンを使う練習。お風呂の練習では、壁にスポンジをつけ、体をこすり付ける工夫をしました。板に釘をつけて服を引っ掛ける装置で、服を脱いだり、着たりもできるようになりました。

保育園に入園。持ち前の明るさと一生懸命さで有美さんは保育園の人気者となります。

保護者が一日一緒にいることを条件に許された小学校でも、自分のできないことははっきり伝え、できる範囲で精一杯取り組む有美さんの姿に、周囲の子どもも明るくなりました。

ところが小学校高学年になり、その歯車が狂い始めます。自分の思いをはっきり伝える有美さんの言動は、反面自分の思ったことを遠慮せずに言う人と感じられてしまいました。ついにある日、仲のよかった友達から、「もう有美についていけない!」と言われ、有美さんは孤立してしまいました。

いつも心配かけているお母さんにも相談できず、結局有美さんは、いじめられていることを誰にも話せませんでした。そしてお風呂場で鏡に映った自分の身体を見つめ、「えっ、これが私…。気持ち悪い…」現実を突きつけられ、「友達が離れてしまったのは身体のせいなのでは…」有美さんから笑顔が消えました。

中学三年間が過ぎ、高校に入学しました。「私が神様からいただいたのは笑顔。その笑顔をこのまま失っていいのだろうか。」そんな気持ちで高校生活がスタートします。

「私、チアに入りたいんだけど、一緒に見学に行こうよ」友人からのこの誘いがすべての始まりでした。目に飛び込んできたのは、先輩たちの真剣な眼差し、そして輝いている笑顔。それを見た時、「私も入りたい!!」という衝動に駆られます。しかし、次の瞬間「でも私には無理…」その気持ちが心を塞ぎました。しかし、顧問の先生に恐る恐る「私でも入れますか？」と聞くと、先生は「あなたのいいところは何？」思わぬ質問に有美さんが「笑顔と元気です」と答えました。「じゃあ大丈夫。明日からおいで」顧問の先生はそう答えてくれました。

初めのうち有美さんは仲間の踊りを見ているだけで楽しく元気をもらっていました。しかし、成長していく仲間たちとは対照的に、何も変わっていない自分に気づきます。「もうやめたい…。」そんな気持ちが芽生え、学校も休みがちになりました。そんな有美さんに仲間は、「明日は来れる？」とメールを送りました。「私が塞ぎ込んでいるだけ。素直になろう」有美さんはそう思いつつも、自分の殻を破れませんでした。

三年生も最後の舞台を目前にしたある日、「最後の舞台を前に、お互いの正直な気持ちを話し合おう」というミーティングが開かれました。「私、実は、足腰を痛めていて練習やめようと思っていたの」「私は、親の仕事がなくなって、学費が納められなくて。アルバイトしながら続けていたんだ」

仲間の言葉に、有美さんは胸を打たれます。「みんないっぱい悩んでいる。辛いのは私だけじゃない。」

いよいよ有美さんの番。震える声で「自分は踊れないから…。みんなにうまくアドバイスができなくて…。みんなに悪いなって…。だから、これ以上みんなに迷惑かけたくなくて…」と話しました。

すると、「私たち助けられてるんだよ」「有美も仲間なんだから、うちらに頼ってよ」と、次々に仲間が声をかけます。そして最後に、先生の言葉が衝撃的でした。「もう有美には手足は生えてこない。でも、有美には口がある。だから、自分の気持ちはハッキリ伝えなさい。有美には有美にしかできない役目がある!!」

有美さんは先生の言葉に自分の生きるべき方向を見つけ、「笑顔で人を勇気づけることができる」ことに気づいたのです。翌日、有美さんに仲間からの提案があります。「最後の舞台、有美も一緒に踊ろうよ?」有美さんは驚きます。「一緒にやろう」「踊ろう」そう声を出しながら仲間が寄ってきます。有美さんは満身の笑顔で応えます「うん」

高校卒業後、有美さんは事務職として働く傍ら、地元のラジオ局でアシスタントの仕事をしたり、歌手としてＣＤを発表したり笑顔で周囲を元気づけてきました。

現在、有美さんはご結婚され、今年の５月 15 日女の子の赤ちゃんが生まれ、幸せいっぱいな文章がブログにつづられています。有美さんの命の輝きは、間違いなく周囲の人の命も輝かせています。

☆★△▲今後の予定○●□■

10 月 15 日（木）学年費引落日　生徒会選挙公示	28 日（水）生徒集会
16 日（金）１学年遠足	30 日（金）第３回総合テスト
２学年ｷｬﾘｱﾐﾆｶﾚｯｼﾞ in 二中	11 月　6 日（金）給食費引落日　漢字検定②
３学年県内修学旅行	12 日（木）生徒会立会演説会・選挙・開票
19 日（月）学校へ行こう週間～23 日	16 日（月）学年費引落日
21 日（水）生徒会選挙候補者告示	18 日（水）２学期期末テスト①
22 日（木）めいりんタイム　生徒会委員会	19 日（木）２学期期末テスト②
26 日（月）教育実習②（～11 月 13 日）	23 日（月）勤労感謝の日
生徒会選挙教室訪問	26 日（木）めいりんタイム　生徒会委員会
27 日（火）PTA 講演会　学年学級ＰＴＡ	